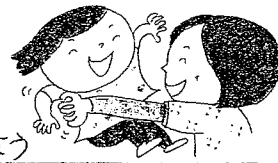


ゆりかごえんだより

2019・6・1



2期(6~9月)のねらい からだづくり活動を通して子ども関係の質を高めよう

ある日事務室にいる私のところへ年長のHくんとKくんがやってきました。Hくんは泣き終えた後の顔、Kくんは困り顔。Hくんは右足の太ももについての噛み傷を見せながら、かじられたいきさつを報告してくれました。おもちゃを“自分で片付けた”から“Kくんが、片付けてくれたHくんの足をかじったのだそうです。

5歳児は語彙数もかなり増え、ことばを介してのコミュニケーションがとれる年齢です。噛むのではなく、ことばで相手に自分の思いを伝えられるようになってほしいので、2人と話してみました。いくつかのやりとりがあった後、Hくんは「そしたら、もうKかじたりしないよ!」とKくんの顔を見て真剣に宣言。うん、わかった」と応じたKくんでした。

ところがこのやりとりを、音部屋で待っていた仲間たちに、Kくんは「どんな話をしたのか忘れた」と報告したのだそうです。本当に忘れたのか、気まずさがあったのかはわかりませんが、待っていた子どもたちは納得がいきません。「園長先生、そう組に来て!」と子どもに呼ばれ、そう組の話し合いの場へ行ってみました。

そこで再度、HくんやKくんとやりとりしたことを他の子たちにも伝えました。すると、

「ふざけたりするのは本当に嫌だ」

「かじらないでちゃんとお口で言ってほしい」

「りす組(4歳児クラス)にやめてほしい」

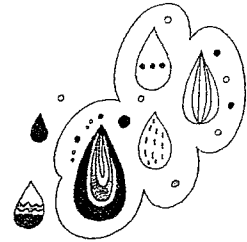
「でも、佐藤先生(4歳児クラス担当)に断られるんじゃない?」

「たんぽぽ組(1歳児クラス)はどう?」

「さくらんぼ組(0歳児クラス)がいいんじゃない?」

「もう、ゆりかご保育園じゃない保育園に行ってもらおうか」

「Kじゃなくて、“かじり〇〇”って名前変えたら?」などたくさん意見が出ました。



自分の考えを相手に言葉で伝える、相手の思いを聞くという、“言うか”と“聞くか”が話し合いの基本になると思います。ぜひ、3歳クラスの頃、話す喜びや聞いてもらう喜びをたっぷり経験してもらいたいです。4歳児クラスの後半には、それに加えて“批判する力”も育ててほしいと願っています。集団の中で物事の良しあしを考えていく中で、欠点や過ちを攻めとがめる“非難”ではありません。

かじるという行為に対してたくさんの“批判”が出たことに手ごたえを感じましたがこれで終わるわけではありません。どう話を進めようか一瞬考えていると、Hくんが「Kはまだゆりかご保育園に慣れてないんじゃない?」だから大目に見てあげようか?とでもいうようなまなざしです。このことばを拠り所にし、進めることにしました。

いくつかのみんなからの提案には従えないKくん。「先生もKくんがりす組になったり、ほかの保育園に行ったり、名前を変えたりするのは嫌だな。みんなはKくんにかじらないでお口で言ってほしいって思っているんだよ。大丈夫かな?」と言うと、「できる」とKくん。するとFくんが「僕みてるわ」と一言。

この「みてるわ」は「かじったりしないように見張っているね」という意味にも聞こえましたが「え、Fくん、Kくんがかじったりしないように見てくれるの? 応援してくれるの?」と肯定的なニュアンスとらえ言ってみると、ほかの子たちからも「僕もみてる」「俺もみてる」と応援してくれることになりました。

その後、「よろしく頼むね」と一人ひとりに握手でお願ひしたKくんでした。

さあ、そう組の子どもたち、これからどんな仲間関係を育てていくのか、とても楽しみになってきました。